

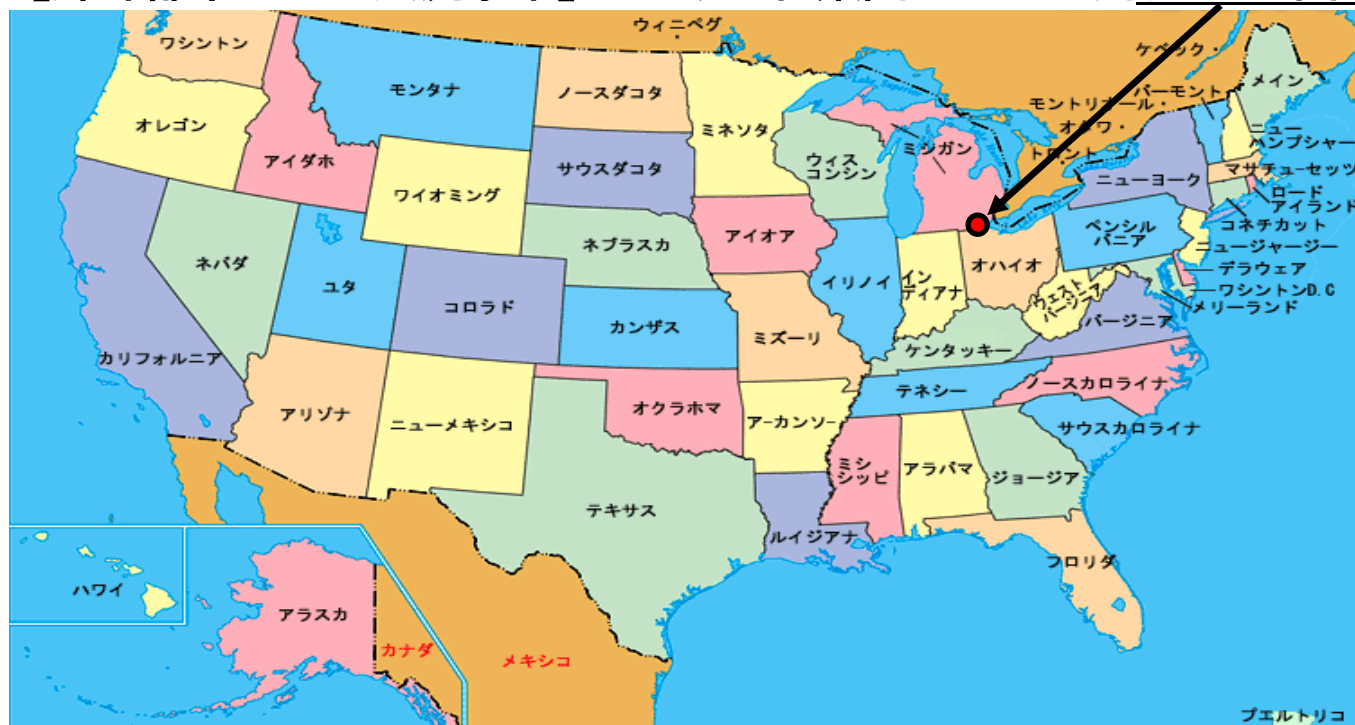
平成 28 年度 燕市 姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業

# 報 告 書

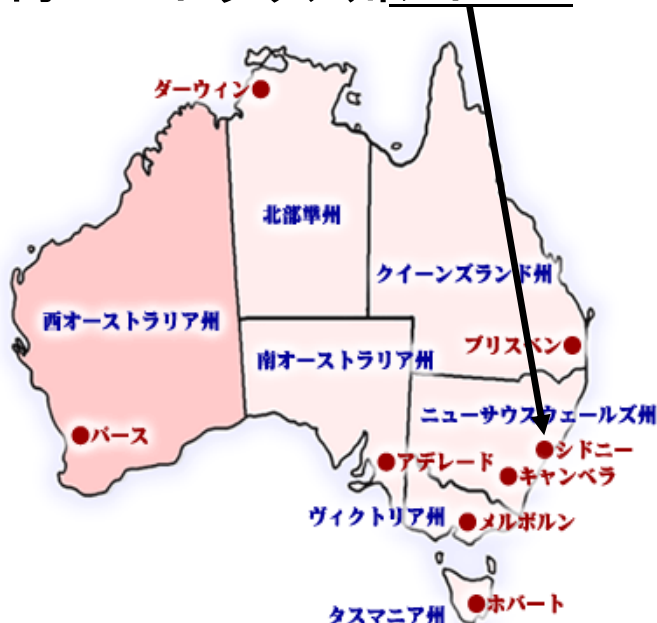
## Our Friendship Will Last for a Long Time.



## 【姉妹都市子ども交流事業】アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村



## 【親善大使海外派遣事業】 オーストラリア連邦 西オーストラリア州シドニー



## シンガポール共和国 シンガポール市



### 表紙写真説明

- 下段左：ダンディ善大使使節団歓迎会
- 下段右：ダンディ
- 上段左：シドニー現地校でのPR活動
- 上段右：シンガポールの新潟県人会交流会でのPR活動

## 平成 27 年度燕市姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業報告書 目次

はじめに	燕市長 鈴木 力 . . . . .	3
------	--------------------	---

ごあいさつ	燕市教育長 仲野 孝 . . . . .	4
-------	----------------------	---

### 【姉妹都市子ども交流事業】

ダンディ使節団滞在日程 . . . . .	5
-----------------------	---

ダンディ使節団団員感想 . . . . .	7
-----------------------	---

ダンディ使節団団員アンケート . . . . .	15
--------------------------	----

「広報つばめ」平成 28 年 9 月号掲載記事 . . . . .	17
-----------------------------------	----

ダンディ使節団担当者報告 . . . . .	18
------------------------	----

### 【Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業】

海外派遣事業日程 . . . . .	20
--------------------	----

親善大使活動報告 . . . . .	22
--------------------	----

親善大使体験報告 . . . . .	27
--------------------	----

親善大使アンケート . . . . .	63
---------------------	----

広報つばめ 平成 28 年 10 月 15 日号掲載記事 . . . . .	67
--	----

海外派遣事業研修参加者、引率者報告 . . . . .	69
-----------------------------	----

## はじめに

### 燕市長 鈴木 力



姉妹都市こども交流事業として、平成 28 年 7 月 21 日から 9 日間の日程で、アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村から、使節団として 4 人の中学生を燕市にお招きしました。

ホストファミリーが見守るなか、飛行機での長旅を終え、使節団が市役所に到着しました。日本の蒸し暑い気候と長旅の疲れでソファーに寝そべるように座っていましたが、翌日には、全員が元気な姿を見せてくれました。面識会では、すぐに緊張もほぐれ、吉田祭りの民謡流しで着てもらおうと用意した「はっぴ」をその場で羽織り、心待ちにしている様子で満面の笑みを浮かべていた姿は、とてもほほえましく感じられました。

滞在期間中は、燕中等教育学校の生徒や Jack & Betty 教室の児童生徒と親睦を深め、民謡流しや書道体験、着物の着付け体験などをおして、燕市の歴史や伝統、文化などを学ぶとともに、日本文化を体験できたものと思います。

また、ホームステイをお引き受けいただいた御家族との絆は、特に深いものとなったことと思います。親元を離れて初めての外国生活で、寂しさや孤独を感じて、文化の違いに戸惑うこともあったと思いますが、帰国の際に見せてくれた笑顔と、ホストファミリーとの別れの涙は、充実した日々を過ごし、たくさんの思い出を作ってくれたのだと確信しました。滞在期間中、御協力を頂きましたホストファミリーの皆様、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

また、4 年目を迎えた Jack & Betty プロジェクトの海外派遣事業では、6 月の英語スピーチコンテストで選出された 12 人の親善大使を、8 月にオーストラリアのシドニーとシンガポールに派遣しました。

シドニーでは、ホームステイをしながら現地の学校に通い、現地の中学生と一緒に英語で様々な教科の授業を受けました。また、オーストラリアの自然や環境、文化の違いを学びながら、派遣の目的である「燕市の PR 活動」をしっかりと行い、産業や文化、伝統技術などを紹介し、相互交流を図ることができました。また、シンガポールでは、新潟県人会の皆様と交流し、燕市の製品がシンガポールはもちろん、海外で取引されていることや、英語を身に付けておくことの大切さを学ぶことができました。

これら、2 つの事業は、いずれも燕市の関係者からの多大なる御支援と御理解、そして、派遣先の受入れがあって実現できるものです。本事業に御協力をいただいている事業者、企業の皆様々に心から感謝申し上げます。

今後も、燕市の将来を担い、国際社会で活躍できる人材の育成に力を注いでまいります。また、国際交流事業を通して、市民の皆様の国際理解が深まるとともに、魅力ある燕市を世界に発信することができるよう、なお、一層の充実を図っていきたいと考えております。引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。



ごあいさつ

## 燕市教育長 仲野 孝



2020 年、東京オリンピック、パラリンピック開催に備え、外国語教育の改革に向けた取組が報道等でも取り上げられております。燕市教育委員会といたしましても、それ以前から、国際交流事業を継続する中で、限られた人数ではございますが、毎年、確実に海外経験の機会を提供させていただき、国際感覚豊かな人材育成に取り組んでまいりました。

さて、姉妹都市子ども交流事業では、今年度は受入事業といたしまして、中学生 4 人、引率者 1 人を迎えました。また、Jack & Betty プロジェクト、親善大使海外派遣事業では、12 人をオーストラリアとシンガポールに派遣いたしました。

姉妹都市子ども交流事業では、使節団の 5 人のホームステイ先を募集いたしましたところ、多くの方からお引き受けいただけるという御連絡をいただき、結果的に抽選となっていました。受け入れてくださった方々だけでなく、お引き受けいただけるとご回答くださった方々には、心から御礼申し上げます。初めて海外で生活するダンディー村の中学生が、笑顔で過ごすことができたのは、その御家族や、事業に快く御協力いただいた市民の皆様が、温かく接してくださったからだと確信しております。今回の滞在も、燕市姉妹都市交流の一層の発展につながり、使節団の子供たちは、将来、ダンディー村と燕市を、より強く結ぶ推進役になってくれることと期待しています。

親善大使海外派遣事業では、真夏だった日本とは反対の気候で、冬の終わりのオーストラリア、シドニーでのホームステイでした。現地の生徒たちと一緒に、授業や昼食など学校生活を体験し、友人となった彼らとともに過ごすことで、異なる生活様式、考え方などを体感できたことと思います。


帰国報告会では、ホストファミリーや現地でできた友人、海外の方々との交流をとおして、英語の力だけでなく、たくさんのことを学び、派遣事業の目的である燕市の PR 活動に真剣に取り組んだ報告を受けました。シンガポールでは、新潟県人会の方々への PR 活動や交流を通して、海外から見た新潟のよさや、燕の製品のよさを再確認できたと聞きました。

親善大使には、これからも自分自身の目標を高くもち続け、また親善大使として、この経験を多くの人たちに伝え、学校や地域、そして様々な場面でリーダーとしても活躍してくれることを期待しております。

この国際交流事業に御協力くださった事業者の皆様、保護者、地域の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、これらの事業の充実と発展に取り組み、燕市の子どもの人材育成に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

## 海外派遣事業日程

月 日	日 程	
8月16日(火)	17:03 燕三条駅出発 19:00 東京駅到着 19:10 東京駅出発 19:55 羽田空港到着 22:55 羽田空港出発	(機内泊)
8月17日(水)	05:00 シンガポール空港(経由地) 到着 07:05 シンガポール空港(経由地) 出発 16:45 シドニー空港到着、バスでホテルへ	(ホテル泊)
8月18日(木)	07:50 現地校 到着 St Mary and St Mina's Coptic Orthodox College (英語授業: 基本、パディステューデントと対面、モーニングティーで交流、昼食、現地校生徒と授業) 15:30 放課後: ホストファミリーと対面	(ホームステイ)
8月19日(金)	07:50~登校、健康観察、日程確認 午前 シドニー視察(バス) オペラハウス ハーバーブリッジ シドニーホスピタル ニューサウスウェールズ州立図書館 日本人領事館 PR活動①(プレゼンテーション) 午後 現地校へ帰校、現地校授業 15:30 ホストファミリーと帰宅	 (ホームステイ)
8月20日(土)	終日ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月21日(日)	終日ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月22日(月)	07:50~登校、健康観察、日程確認 午前 1964 東京オリンピックに、体操オーストラリア代選手として参加したダグラス氏のご講演と PR 活動②(プレゼンテーション) 午後 現地校の授業に参加 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月23日(火)	07:50~登校、健康観察、日程確認 午前 英語授業: オーストラリア 午後 スポーツデイ ボーリングとバスケットボール: 校外 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月24日(水)	07:50~登校、健康観察、日程確認 午前 英語授業: アボリジニ 午後 フェアウェルパーティー PR 活動③(クイズ、つばめっ子かるた) 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月25日(木)	08:00 現地校出発、ショッピングモール 13:00 シドニー空港出発 16:45 シンガポール空港到着、バスでホテルへ	(ホテル泊)

8月26日(金)	午前 日本自治体等連合シンガポール事務所訪問 質疑、協議会 マーライオン公園 アラブ人街見学 サルタンモスク寺院 18:30 新潟県人会との交流、PR活動④(クイズ) 20:30 ホテル到着	(ホテル泊)
8月27日(土)	05:30 ホテル出発 06:00 シンガポール空港到着、朝食 08:05 シンガポール空港出発 16:10 羽田空港到着 17:00 羽田空港出発 17:45 東京駅到着 18:12 東京駅出発 19:59 燕三条駅到着	

## 親善大使活動報告

### 1 PR活動の内容

#### (1) プレゼンテーション

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ① 燕市の自然・地理・交通・農業 | ② 燕市の学校教育      |
| ③ 燕市の金属加工業       | ④ 燕市の観光・名所・名産品 |

#### (2) 文化紹介

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| ① つばめっ子かるた(英語版) | ② 燕クイズショー |
|-----------------|-----------|

#### (3) 表敬訪問

- |                     |
|---------------------|
| ① シドニー日本人領事館        |
| ② 日本自治体等連合シンガポール事務所 |

### 2 場所・対象者・期日

No.	場所	期日
(1)	シドニー日本人領事館	8月19日(水)
(2)	St Mary and St Mina's Coptic Orthodox College (ダグラス氏)	8月25日(火)
(3)	St Mary and St Mina's Coptic Orthodox College (フェアウェルパーティー)	8月27日(木)
(4)	新潟県人会シンガポール支部	8月27日(木)

### 3 担当

No.	PR活動の内容	メンバー		
(1)	燕市の自然・農業	佐藤 海帆	丸山 綺月	溝口 優希
(2)	燕市の学校教育	舩岡 奈柚	森山 晴日	阿部 菜々里
(3)	燕市の金属加工業	伊藤 里菜	北澤 春花	近藤 佳菜
(4)	燕市の観光・名所	柴山 凜奈	小林 麻美子	山田 ひなた

## 最高の出会いがあった、最高の夏休み

燕市立吉田北小学校 6 学年 阿部 菜々里

私は、今回初めて海外へ行きました。オーストラリアではシドニーでホームステイを経験しました。行くことができると知ったときは、本当にうれしく思ったその半面、行った後のことを冷静に考えると、不安に思うことがたくさん頭に浮かんできました。そして、実際に当日が近づき、いざシドニーに到着したときには、そんな不安はすぐに忘れてしまいました。それは、現地の人たちみんなが、とてもいい人たちだったからです。

ホストファミリーは、私があまり英語を話すことができなくても、たくさん話しかけてくれました。また、私が言いたいことを英語で正確に伝えられないときでも、ジェスチャーなどを使うと、それを一生懸命に理解しようとしてくれました。

印象に残っていることのひとつに、ホストマザーのことがあります。ある夜、ホストマザーが部屋に来て、「日本のシャンプーを一緒に見に行ってほしい。」と言いました。次の日、一緒に買い物に出かけて、日本のシャンプーを紹介すると、それを購入し、「とてもすばらしい。」と気に入ってくれました。私がオーストラリアに興味をもち、知りたいと思うのと同じに、日本のことを知ろうとしてくれているのだと思いました。

現地の学校では、様々ないい生徒と出会うことができました。ある生徒は「“Hello.” は日本語で何と言うの。」と尋ね、『“こんにちは。”だよ。』と答えると、その次の日から、必ず「こんにちは。」とあいさつしてくれました。そんな現地校での授業にもとても感動しました。生徒と先生の距離がとても近く感じられたからです。授業中、生徒から笑顔での質問が多く、とても賑やかな感じでした。授業内容は日本とそれほど変わらないはずなのに、なぜだろうと不思議に思いました。日本と同じく、叱るときの先生方はとても怖かったのですが、日本でもこんな授業が受けられたらいいなとも思いました。

今回、私は2つのことを学びました。それは「優しさ」と「楽しさ」です。私が現地で出会った人たちは、“Thank you.” と “Sorry.” を口にする場面がとても多かったと思います。しっかり聞こえるような声で言っていました。そして、どんな人にもフレンドリーで、楽しく会話をしてくれました。私もこの2つを忘れずにいたいと思います。最高の出会いがあった、最高の夏休みでした。



## My Best Summer Vacation with the Greatest Encounter

Nanari Abe

Yoshida-Kita Elementary School 6th Grade

I went overseas for the first time in the summer of 2016. In Australia, I went to Sydney and stayed with a family. I was very happy when I first heard that I could participate in the homestay program. But on the other hand, I felt nervous. There were a lot of things to worry about. However, when I arrived in Sydney and met the people there, I forgot all about my concerns. It is because the people there were very good and kind to me.

I could not speak English well. So I didn't talk a lot to my host family. But everyone talked a lot to me. It was very hard for me to clearly speak my mind to my host family, so I often used gestures. They tried hard to understand me and were able to grasp my thoughts through my gestures.

A memorable moment was when my host mother wanted Japanese shampoo. One night, she came to my room and told me that she wanted to buy Japanese shampoo. The next day, we went shopping together, and I recommended a product to her. She seemed very happy and really liked it, telling me that it was very good. Just as I wanted to learn about Australia, I thought she wanted to learn about Japan, too.

In Sydney, the other ambassadors and I went to a school named St. Mary & St. Mina's Coptic Orthodox College. We met some wonderful students from various countries there. One of them asked me what "hello" was in Japanese. I answered, "Konnichiwa." After that, they greeted me with "konnichiwa" every day. I was also deeply impressed with the classes at school. I felt that the students and teachers were very friendly to each other in class. The students asked a lot of questions with a smile. The classes were very lively. However, even some friendly teachers would scold students very strictly like Japanese teachers. I was so scared then.

The class content was very similar to Japan's. I don't know why, but there was such a difference between classes in Tsubame and in Australia. At the same time, I wish I could take such classes in Japan, too.

So I learned two things, which are kindness and enjoyment. People I met there often said, "Thank you" and "Sorry" to me. They were friendly with everyone and enjoyed talking with each other. I won't forget these two things that I learned, because they are engraved in my mind and I don't want to waste my precious experiences. This opportunity gave me the greatest encounter with a lot of good people. It was the best experience and summer vacation.



ホストファミリーと



バディスチューデントと



親善大使の英語授業（エリカ先生と）

## 夢への第一歩

燕市立吉田北小学校 6 学年 北澤 春花

私は、今回の海外派遣事業で多くのことを学び、貴重な体験をすることができました。特に、「何事にも挑戦する」という気持ちが大切だということを学びました。

普段の私は、自分の気持ちをうまく伝えられないことがあるので、現地で伝えたいことをどう伝えたらいいのかさえ分からず緊張していました。英語しか話さない相手を前にして頑張ってみても、単語を繋げて話すことしかできませんでした。しかし、私の伝えたいことは相手に伝わり、会話をすることができました。そして徐々に、バディスチューデントやホストファミリーと、英語でスムーズに会話ができるようになりました。

相手の話が分からないときも、恥ずかしがらずに何回も聞き返すことで、楽しく会話ができた時は、とても嬉しかったです。あきらめずに話すことによって、今回の目標である「英語力を向上させる」ことが少しできたように思いました。会話だけでなく日常生活や食文化の違いにも不安な気持ちがありましたが、そんな場面でも、勇気を出して積極的になることで楽しく過ごすことができたので、様々なことにチャレンジをして良かったです。これからも、この気持ちは大切にしたいと思いました。

学校から帰った後はホストファミリーと一緒に過ごしました。家で一緒に折り紙をしたり、海までドライブやショッピングに出かけたりもしました。週末には、動物園でコアラを見たり、カンガルーにえさをあげたりして、見たことのない動物がいて日本の動物園とは違う感じでした。電車でオペラハウスに行き、ハーバーブリッジにも登り、ホストファミリーのおかげでシドニーをじっくり観光できました。

シンガポールでは、ずっと見たいと思っていたマリーナベイ・サンズを見られたことや夜景がとても綺麗だったことが印象的でした。初めて「ヘイズ」についても知りました。霧や煙があるように曇り、遠くがかすんで見えて驚きました。シンガポール全体がこのようになることがあると知りました。

現地の新潟県人会の方々との交流会では、久しぶりに和食を食べました。

この12日間では、初めてのことで戸惑うことがたくさんありました。しかし、周りのすべての人のおかげで、思った以上の成果を得られたと思います。今回の貴重な経験を、これからの自分に生かしていきたいと思います。

## A Step Towards My Dream

Haruka Kitazawa  
Yoshida-Kita Elementary School 6th Grade

I learned a lot of things and had many valuable experiences on this trip. I especially learned that “challenging oneself with everything” is very important. I sometimes couldn’t speak my mind very well. So I was very nervous when I first arrived in Australia. I could only speak English by connecting some words I knew. But everyone there tried hard to understand me. So I never gave up and tried my best. Little by little, I was able to speak in English with the buddy students and my host family.

Even though I felt embarrassed, I tried to keep asking questions when I couldn’t understand them. So I felt very happy that I could have fun communicating with others in English. I think I was able to improve my English ability, which was my aim before leaving Japan. I was also afraid of the differences in food, culture, conversation style, and so on. However, I tried to be positive and face everything that I was afraid of with courage. From now on, I want to cherish this feeling of challenging myself.

I spent my time after school with my host family. They took me on drives to the sea, to go shopping, and so on. We also enjoyed doing origami at home together. I taught them how to do that. On the weekend, we went to the zoo, and I fed a kangaroo. We saw koalas, too. There were some animals I had never seen before. It was different from a Japanese zoo. We went to the Opera House by train, and we also went up the Harbor Bridge. Thanks to my host family, I really enjoyed Sydney.

In Singapore, I was impressed with the Marina Bay Sands – which I have always wanted to see – and the beautiful night view. I also learned about “haze” for the first time, which was like fog. Even when it was sunny, we couldn’t see the view clearly. The buildings and the mountains were hazy in the distance. All of Singapore was surrounded by it.

After participating in an exchange meeting with the Niigata Kenjinkai where we talked and ate Japanese food, the other ambassadors and I returned to Japan.

I was very nervous at the beginning of my 12-day trip, being apart from my parents for the first time. But, thanks to everyone around me, I was able to exceed my own expectations. I want to make use of this experience in the future.



現地校で友人と



ホスト・ファミリー と一緒に



休日に動物園で

## たくさんの思い出ができた海外派遣

燕市立吉田中学校 1 学年 舩岡 奈柚

私にとって、オーストラリアとシンガポールへの海外派遣は、とてもいい経験になりました。ほとんどのことが初めての経験だったので、最初はとても緊張していました。しかし、実際に現地に着いて、現地の人たちと接しているうちに、だんだん環境に慣れていき、自分から進んで会話することができるようになってきました。この海外派遣で、二つの大きなことを学びました。

その一つは、積極的に行動することの大切さです。私は、積極的に行動できてはいませんでした。が、現地の学校生活を一緒にしていたバディやその友人、クラスメイトは、授業中に積極的に挙手したり、発言したりするなど、その行動が積極的でした。その姿を見て、私は積極的に行動することは大切だということを以前より強く思うようになりました。

二つ目は、英語を話すことができることは、たくさんの人と話すことができることにつながるということです。そのことについては、少しは分かっているつもりでしたが、実際に英語圏の国を訪れてみて、様々な人種の人たちが英語をとおしてコミュニケーションを図る姿を見て、本当に実感できました。

現地の学校にも様々な国からの生徒が入り混じった状態でした。中国からの生徒も、韓国からの生徒も、そしてその他の国々からの生徒が、皆、英語を通してコミュニケーションしていたことが印象的でした。英語を自由に話し、使いこなすことができたなら、世界中の多くの国の人とでも会話することができ、コミュニケーションすることができるということを改めて実感できました。

私がこの海外派遣に行く前に立てた目標は、現地の人とたくさんコミュニケーションを取り、自分の力を伸ばすことでした。結果的に自分の英語を用いたコミュニケーションの力は伸びたと思います。

シドニーでは、バディやホストファミリー、現地の先生たちとたくさん会話することができましたが、時々、内容が伝わらず会話が不十分なこともありました。今後は、バディとのメールでやり取りする際は、辞書などでしっかり調べて行います。また、海外に行く機会があったら、今度は、この反省を活かして、さらに積極的に話しかけられるように、英語をしっかり学習して、より良い発音で会話できるようにしたいです。

## Overseas Trip with Many Memories

Mayu Masuoka  
Yoshida Junior High School 7th Grade

During summer vacation last year, I spent a very happy time in Australia and Singapore for about two weeks. It was a very important experience for me. Before leaving, I was really nervous. But after I arrived, I slowly became comfortable with the environment and I could talk confidently with the people there. Because of my stay, I learned two important things.

One is the importance of a positive attitude. I have never been very active, but the students there were so confident during class. They would raise their hands and speak aloud. I thought how important this was, and I wanted to be a positive person like them.

Second is the usefulness of English. It gives us a chance to connect with many people all over the world. I thought I really understood this idea, but I was wrong. I saw many people from different countries talking in English. Because of them, I could finally understand the importance of using English.

In the school we visited, there were students from various countries. Some were from China, Korea, and so on. They all spoke in English, so I was impressed. I realized again that I could communicate with many people around the world using English.

One of my goals before leaving Japan was to speak with the people there as much as possible to improve my English ability. I think I have achieved that.

In Sydney, I could speak often with the students and teachers as well as my host family. Our conversations were not always perfect, because it was difficult for them to understand my poor English. So nowadays, when I send mails to my friends there, I check words or expressions with a dictionary and so on. And if I have the chance to visit another country, I want to learn English even more before going. So I have to study English a lot, because I want to speak with good pronunciation.



現地校で友人たちと



ホスト  
ファミリーと  
家で

ホスト  
ファミリーと  
レストランで





## わたしの大切な思い出

燕市燕北中学校 2学年 小林 麻美子

私は、夏休みに7日間、オーストラリアのシドニーに、そして2日間シンガポールに滞在しました。わたしにとって海外は今回が初めてでした。そこで、今までに体験したことがなかったすばらしい体験をすることができました。

わたしは英語があまり得意ではなかったので、海外派遣事業の親善大使に選ばれたときはとてもビックリしました。そこで、このチャンスを生かして、オーストラリアでネイティブスピーカーの話をたくさん聞いて、積極的にコミュニケーションを図り、自分の英語力を高めたいと思いました。

日本を出発し、シンガポールを経由してシドニーに到着したときには「オーストラリアに到着した実感」はあまりありませんでした。しかし翌朝、現地の学校に行きバディスチューデントのグロリアに会って、英語であいさつをしたときに「オーストラリアに来たんだな」という実感が湧いてきました。彼女はとても優しく、わたしのへたな英語を一生懸命聞いて理解してくれたので、本当に安心しました。その日、グロリアと一緒に社会科の授業で、日本とオーストラリアの首都や有名な山などを学び合いました。その教室のほとんどの生徒が、日本のことをある程度知っていてくれたので、うれしくなりました。

わたしは現地校の生徒に手渡すために、日本でお土産を買って持って行きました。でもそれをいつグロリアに手渡そうかと少し戸惑っていました。彼女は、モーニングティーやランチの時、いつも一緒にいてくれました。それで仲良くなれて、やっと手渡すことができた時、彼女はとても喜んでくれ、「もってきて良かった」と思いました。その後わたしに、手紙と一緒にプレゼントをもってきてくれました。オーストラリアに友人ができたことが、本当にうれしかったです。

オーストラリアでの日々はすぐに過ぎ去っていき、グロリアやホストマザーと別れる時は本当に辛かったです。

今回の経験をとおして、私はネイティブのような発音で英語が話せるようになりたいと強く思いました。そして、またいつか再びオーストラリアに行って、グロリアやホストファミリーに再会したいと思っています。

## My Precious Memories

Mamiko Kobayashi  
Tsubame Kita Junior High School 7th Grade

I stayed with a family in Sydney, Australia for 7 days. Then, I stayed at a hotel in Singapore for 2 days. It was my first time to go abroad. I was able to experience something that I had never experienced before.

I am not very good at English, so I was very surprised that I was chosen as one of the goodwill ambassadors for Tsubame City. So, I wanted to use this opportunity to improve my English ability by listening to and communicating with the locals there.

When I arrived in Sydney via Singapore, I didn't feel that I was in a different country. But by the next morning, when I met Gloria – one of the buddy students – and talked with her in English, I finally realized that I was in Australia. She was so kind, trying to understand my poor English. So I was very relieved. After that, I went to a social studies class with her to learn about famous Australian cities, mountains, and so on. When I talked about Japan during class, I was happy that most of them knew something about my country.

I brought some Japanese souvenirs for the students there. I wondered when I should give them to Gloria. Thankfully, she was always with me during morning tea and lunch time. We became very good friends, so I was able to give them to her. I was very pleased because she was glad to receive them. After that, she gave me some presents and a letter in return. I was moved to have such a good friend in Australia.

When my trip in Australia was over, I really missed Gloria and my host family. I was very sad to say good-bye to them.

Because of this experience, I really want to speak English as well as a native speaker. I also want to return to Australia, and meet Gloria and my host family again.



スポーツデイ：ボーリング会で



現地校でバディスチューデントと



英語を教えてくれたエリカ先生と

## 挑戦

燕市立吉田中学校 2年 山田 ひなた

私は、今年の夏、燕市の親善大使として、オーストラリアとシンガポールに行ってきました。そして、オーストラリアではホームステイをしました。現地の学校では、現地の生徒と一緒に英語で授業を受けました。この海外派遣では、本当にたくさんのことを学びました。その中の3つのことについて書きます。

一つは、現地で話されている、ネイティブの発音の英語です。初めて、実際の場面での本当のコミュニケーションを体験し、イントネーションなどがとてもきれいだなと思いました。そのとき、「わたしもネイティブのような発音やイントネーションで英語が話せるようになりたい」と心から思いました。

二つ目は、食文化の違いです。ある日、ホームステイ先で、夕食に初めてオーストラリアの米を食べました。日本で毎日食べているご飯とはかなり違うもので、食べた瞬間に、「やっぱり日本の米が一番だな」と実感しました。その他にもオーストラリアでは、たくさんの食物を食べましたが、やはり日本の食べ物とは違いました。自分の口に合わないものもありましたが、おいしい物もたくさんありました。中でもホストマザーが作ってくれたチョコレートケーキは一番おいしかったです。

三つ目は、コミュニケーションの大切さです。現地では、学校でもホストファミリーの家でも、わからないことは積極的に質問するようにしました。自信がなくても、伝えたいことを伝えようとする気持ちや態度が必要だということがわかりました。現地校の生徒たちやホストファミリーは、わたしが質問すると、しっかり質問を聞いて、なんとか理解しようとしてくれて、みんなは優しく教えてくれました。彼らの温かさを実感することができました。

わたしたちが英語を話すことができるようになれば、国境があっても言葉による壁は存在しとなくなると思います。だから、わたしは、これからはもっと自分の英語力を向上させていきたいと思っています。そして将来は、もっともっといろいろな国を訪れてみたいと思うようになりました。

## My Challenge

Hinata Yamada  
Yoshida Junior High School 2nd Grade

I went to Australia and Singapore as a member of the Tsubame City Goodwill Ambassadors during the summer of 2016. In Sydney, I stayed in a private home. And we took classes in English with the students there. I have learned a lot of things. I wrote about three of them.

First of all, I was surprised at the pronunciation of the native speakers. I had experienced real communication with a native speaker for the first time. I was moved by the speed, intonation, rhythm and so on. After, I really wanted to speak English very well, just like them.

Second, I realized the differences in our food culture. One night, at dinner time, I ate Australian rice for the first time. It was very different from the Japanese rice I eat every day in Tsubame. As soon as I ate it, I was sure I liked Japanese rice better than the Australian kind. I ate a lot of other food. I didn't like some of them, but I loved others. The most delicious food I ate in Australia was the chocolate cake my host mother made for me.

Third, I thought it was very important for us to communicate with others. I tried to ask a lot of questions at the school and at my home there. I found that even if we don't have a lot of confidence, it is very important to try our best to communicate with others. When I asked questions, they listened to me very carefully and tried to understand me. And they kindly answered me with easy English. I was very happy to know their kindness.

If all of us can speak English, the language barriers between countries will be broken even though the actual borders will still exist. So I wanted to improve my English ability. In the future, I also want to visit many other countries.

現地校で友人たちと



シドニーオリンピックの聖火ランナーの本物のトーチ



英語授業で  
発表

## たくさんの思い出ができた海外派遣

燕市立吉田中学校 3 学年 近藤 佳菜

私は燕市の親善大使として 12 日間オーストラリアを訪問しました。初めての海外だったので不安と期待がありました。

オーストラリアでは、現地の家庭にホームステイをしました。平日はその家から学校に通い、親善大使だけの英語の授業と、現地の生徒と一緒に様々な教科の授業を英語で受けました。とても新鮮で楽しかったです。その中でも特に印象に残っていることが、二つあります。

一つ目は、バディスチューデントとの交流です。海外派遣に行く前は、「友達ができるのか、英語だけで本当に会話ができるのか」という不安がありました。そんな不安の中、実際に初めて学校に訪れた時に、現地校の生徒は皆“Good morning.”と明るく、笑顔で声をかけてくれました。私はその一言に救われた気持ちでした。不安のせいで自分から話しかける勇気が出なかったのが本当に嬉しかったです。そのおかげで現地の生徒たちと打ち解けて、一緒にモーニングティーやランチの時間を過ごしたり、授業を受けたりできました。彼らと日本の文化について話したり、バスケットボールをしたりしてとても楽しい時間を過ごしました。授業は全てが英語なので分らないことが多くありました。そんな時でもバディースチューデントが熱心に説明してくれて、本当に優しく接してくれました。私にとって初めて外国の友人ができたし、自分の英語力も向上させられ、とても良い経験になりました。

二つ目は、燕市のPR活動をしたことです。オーストラリアでは日本領事館、英語の講師の方達や現地校の生徒たちに、シンガポールでは、新潟県人会の方々に発表しました。滞在前からたくさん練習してきたので、やり終わった後は、12 人の連帯感でいっぱいでした。燕市の魅力や名所などをクイズ形式にして出題したり、プレゼンテーションをしたりしました。とても盛り上がってくれて嬉しかったです。そして何よりも燕市の素晴らしさをたくさんの人達に知ってもらえたことに誇りを感じました。燕市民の一人としてやり尽くして来られたと思っています。

この海外派遣は私にとって本当にかげがえのないものとなりました。初めてのことばかりでしたが、改めて燕市の魅力を知ることでもできたし、海外の文化や生活に触れることができました。この経験を将来に生かしていきたいと思っています。これからも燕市の発展に大きく関わっていきたいと思っています。楽しくそして勉強にもなった海外派遣になりました。



## Overseas Dispatching with a Lot of Memories

Kana Kondo

Yoshida Junior High School 3rd Grade

I visited Australia as a member of the Tsubame City Goodwill Ambassadors for about twelve days. I was nervous as I expected because it is the first time that I traveled abroad.

In Australia, I stayed in a private home and I went to school by my host family's car. We took various classes on weekdays. That was a lot of fun and I felt very refreshed. Two things impressed me the most.

One of them was the communication I had there with my buddy students. First, I was afraid that I couldn't make any friends there communicating only through English. But, when we visited the school for the first time, every student said to us, "Good morning." with a smile. I didn't have the courage to talk to them in English at first. But when I heard them, I was really glad and relieved. After that, I could spend my time with them during Morning Tea Time and lunch time. We enjoyed our classes with them. I was very happy to talk about Japanese culture and play basketball with them. Of course the classes had all been done in English, so I couldn't understand them sometimes. When I was in trouble, they always tried very hard to explain to me with easy English. They were so kind. Now, for the first time, I have some friends from Australia and I can improve my English ability. It was a very good experience.

The other thing was our presentation. We could tell them about Tsubame City with our presentation. In Australia we did our presentation for English teachers, the students and the staff of the Consulate-General of Japan in Sydney. In Singapore we presented to the members of Niigata Kenjinkai. We practiced a lot again and again before leaving Japan. After our presentations, all of the members built a feeling of togetherness. We could tell them a lot about the good charms of Tsubame through our presentation, a quiz and karuta. I was very happy because they raised their hands and answered the questions we asked. They really seemed to enjoy it. And I was proud to let them know about Tsubame. I was sure that I did my best as a citizen of Tsubame City.

I have very good memories of this overseas trip. There were a lot of things that I have never experienced. I was able to learn about Tsubame's good points again, and about foreign cultures and lives. I will make the best use of this experience for the future. Now, I want to be involved in Tsubame's development in the future. I had a lot of fun and I learned a lot of things through this overseas trip.



ホスト  
ファミリーと

動物園で  
カンガルーと



## オーストラリアでの素晴らしい時間

燕市立吉田中学校 3 学年 溝口 優希

私は夏休みにオーストラリアで素晴らしい時間を過ごしました。8 月 18 日から約 1 週間、シドニーでホームステイを体験しました。ホームステイ以外にも、空港での出国、入国の手続きや機内での時間、シドニーのホテルやレストランなど、すべてが新鮮でした。シドニーでは現地の学校へ通い、現地校の生徒たちと一緒に様々な教科の授業を受けました。授業以外にも、学校ではモーニングティーやランチなどの休憩時間に、バスケットボールをしたり、スポーツデイにはボーリングをしたりして、すべてが貴重な経験でした。その中でも、次の二つのことは本当にうれしく、思い出に残ったことです。

一つ目は、現地校の生徒たちのことです。現地校で、現地の生徒と一緒に受けた授業は、もちろんすべて英語だったので、聞き取りが難しくて、最初は授業がわかるのかとても心配しました。しかし、周りの生徒たちが授業について、じっくりていねいに教えてくれました。現地の生徒はみんなが優しく、とても親切にしてくれました。特にバディメイトとは仲のよい友人になることができとてもうれしかったです。

二つ目は、現地での授業についてです。シドニーの現地校では、様々な教科の授業がとてもユニークだったと思います。授業とともに先生方もとてもユニークでした。一人一人の個性が強く、教え方もそれまで自分が経験してきた授業とは違っていました。もちろん現地の生徒もユニークな生徒が多いなと思いました。授業中に先生方の話や問いに対して、間違いを全く気にすることなく積極的に堂々と自分の考えを発言し、授業に楽しく参加していました。このような学校で、英語を話す現地校の生徒たちと一緒に授業をうけることができ、本当の良かったと思います。

海外派遣事業を終えた今でも、英語を話すことは難しいことだと思っています。しかし、この経験をとおして、英語を話すことは楽しいことだということも実感しました。英語を用いてコミュニケーションできる素晴らしさを学ぶことができたと思います。

これからも、自身の英語力をさらに向上させて、将来は英語を使う仕事に就きたいと思っています。

## The Wonderful Time in Australia

Yuki Mizoguchi  
Yoshida Junior High School 3rd Grade

I had a very wonderful time in Australia during the summer of 2016. I stayed in a private home in Sydney for about one week starting on August 18<sup>th</sup>. During this trip, I experienced a lot of new things. For example, arrival and departure at the airports. It was my first time flying inside of a plane. And once we arrived in Sydney, I ate in a hotel restaurant for the first time, too. We took various classes at school in Sydney with the students there. We played basketball with them at Morning Tea Time and after lunch. We also went bowling on Sports Day. All of the experiences were very precious for me. And two of them made the happiest memories for me.

One of them was the time I spent with the students there. All the classes I took with them were in English. So it was very difficult for me. I was afraid that I wouldn't understand the teachers. When I couldn't understand them, the students around me explained carefully in easy English. They were so kind to me. Especially, my buddy student who became a very good friend of mine was so kind. I was very happy to have a great friend in Sydney.

The other memory was from the classes I took there. I thought the classes there were so unique. The teachers were very unique, too. The ways of teaching were very different from the ones I have experienced in Japan. Some of the students were also unique. They were not afraid of making mistakes. They expressed what they wanted to and asked questions confidently. They enjoyed all of their classes. I thought I was very lucky to take the classes with them at their school.

Even now, after coming back to Japan, I think that using English is not easy for me. But I realized that using English was a lot of fun through this experience. I learned the value of communication through English. Now, I will improve my English ability and I want to get a job using English in the future.



ランチの後は、現地の生徒とサッカー



ホストファミリーと寿司を！



バディスチューデントと

## 12 日間の滞在を終えて

燕市立分水中学校 3 学年 佐藤 海帆

私は、中学最後の夏休みに燕市海外派遣事業の親善大使としてオーストラリアとシンガポールに行ってきました。私達 12 名は、海外のたくさんの方々に燕市を知ってもらうためにプレゼンテーションや「燕っこかるた」、クイズを準備していきました。それらを楽しんでもらいながら燕市の良いところをたくさんアピールしました。

現地の生徒はとてもフレンドリーで、特に最終日に行った、燕市に関するクイズの時はとても盛り上がりました。陽気な生徒ばかりで次々に発言してくれるので、お互いに楽しみながらも、燕市の良いところをしっかりと伝えることができました。また、「燕っこかるた」で遊んだ時には、彼らにとって初めての「かるた遊び」に、みんなとても興味深く取り組んでくれて、“It’s so fun!”（「すごく楽しい！」）という声や、質問があちこちから出ました。彼らは日本語の「ひらがな」が全く分からなかったもので、ヒントとして絵を見せたところに “I got it!” と言って絵札を取り合っていました。その楽しそうに盛り上がる様子を見て私達も楽しくなりました。

ホームステイ先では、私の中で一番のカルチャーショックがありました。それは、夕食に出された料理の肉がカンガルーだったことです。カンガルーと言えば「動物園で見る動物」と思っていました、それが食卓に並んでいたことに驚きました。サイコロ状に切って焼いてあるものでしたが、私は初めて食べてみて、とても硬くて食感が苦手だなと思いました。なぜカンガルーが食べられるようになったのか話を聞いてみると、オーストラリアでカンガルーが増えすぎたことから食用にするという習慣ができたそうです。このことにも驚きました。私がお世話になった地域では、日本とは違いどのお宅でも敷地がとても広く、プール付きの住宅がほとんどでした。また、シャワーヘッドが固定されていて、お湯と水の 2 つのハンドルを手動で回して温度調節しなければいけないことにも驚きました。毎回手動で調節しなければならない面倒さに、日本は便利だなあと実感しました。

シンガポールでは、マーライオンやマリーナベイサンズを観光しました。その周辺では、英語よりも中国語が多く飛び交っていたことに驚きました。

初めてのオーストラリアとシンガポールで、多くの方々と触れ合い、カルチャーショックもたくさん受けました。また訪れたいと思える魅力的な国々に行くことができ、中学最後の夏休みは、充実したものになりました。

I went to Australia and Singapore as a member of the Tsubame City Goodwill Ambassadors during the last summer vacation of my junior high school life. We 12 members, practiced expressing our feelings about Tsubame in English very hard through presentations, quizzes and karuta so we could tell people about Tsubame. We told them about Tsubame City with joy.

The students there were so friendly and they really enjoyed the quiz about Tsubame on the last day at the school. They livened up during the quiz a lot. All of them were so cheerful and answered the quiz positively by raising their hands and using big voices. We also enjoyed the quiz ourselves because we could teach the students about Tsubame City. When we did "Tsubamekko Karuta", they really enjoyed it. It was the first time for them to play "karuta". Some of them shouted, "It's so fun!" and asked a lot of questions. They couldn't read hiragana at all, so we explained about the cards in English and showed them pictures. When they listened to the explanation and saw the pictures, they began to scramble for the picture cards. We were very happy to see them enjoying it a lot.

I had felt a very big culture shock at the private home I stayed at. It happened at dinner. One evening, the meat of a kangaroo was served for dinner. I was shocked, because I thought of a kangaroo as an animal that we see in a zoo. We don't eat it at all. It was roasted and cut into small cubes. I tried some for the first time. It was hard and I didn't like it very much. I asked why kangaroos came to be eaten. They answered. Once, the number of kangaroos in Australia was too high. So people in Australia began to eat them. That became a custom. In the area where my host family lived, most of the homes around there have a swimming pool and a big garden. They were different from Japan. The shower head was also different. It was fixed and we had to control the temperature of the water with 2 handles. One is for cold water and the other is for hot water. When we take a shower, we have to control the temperature every time. It is easier for us to take a shower in Japan than it was in Australia.

In Singapore we saw the Marlions and the Marina Bay Sands. Around there people speak Chinese more than English. I was surprised by that.

I met many nice people and had felt a big culture shock. The last summer vacation of my junior high school life was so fruitful, because I could go to the charming countries that I now want to visit again.



現地校の生徒と授業やモーニングティー



怪物登場？（アボリジニーに関する授業）



## 一生の思い出

県立燕中等教育学校 2 学年 伊藤 里菜

私たちは燕市の親善大使として、オーストラリアに9日間、シンガポールに2日間滞在しました。シドニーでは、ホームステイと現地の学校で授業を受けるなど学校生活を体験してきました。

ホームステイでは、慣れない英語を使つての生活を、7日間楽しみました。最初は、自分の英語が通じるかとても不安でした。しかし、ジェスチャーを交えて、自分の知っている単語を使いきって、なんとか伝えることができました。ホストマザーはとても優しく、話をしっかり聞いてくれました。日本とは、食事がかなり違い、シャワーの使い方もとても違っていて最初は戸惑いましたが、とても良い経験になりました。休日には、ショッピングモールに連れて行ってくれました。実際の買い物の場面では、店員さんが英語で話しかけてくるので、最初少し不安でしたが、たくさん買い物をすることができました。

現地の学校では、バディスチューデントとたくさん会話することができました。その生徒のことについて話を聞いたり、自分のことや日本のこと、燕市のことをたくさん話したりすることができました。燕市の田んぼや、すしの画像を見せると、とても興味深く見ていました。現地校の英語授業では、ネイティブの先生方から、英語を学びました。もちろんネイティブの発音での授業だったので、自分が思っている発音と違うところなどを学ぶことができました。また、英語だけでなく、バディスチューデントと一緒に、様々な教科の授業を受けました。日本とは全く違う授業もあり、最初は戸惑いましたが、だんだんに慣れてきて、楽しく授業に参加できるようになりました。オーストラリアの友人ができて、とても嬉しく思いました。現地の生徒はとても積極的で、授業中もどんどん挙手して、どんどん発言していたことに驚きました。日本でも、授業中、生徒はもっと積極的になるといいのかなとも思いました。

シンガポールでは、新潟県人会の方々の前でPR活動として、クイズを行いました。このクイズで盛り上がってくれて、その後の食事でもシンガポールの話などを聞いて、楽しく過ごしました。

この経験は私にとって、一生の宝物です。これからの英語の学習や日々の生活に活かしていきたいと思います。最後に、私たちにこの素晴らしい経験をさせてくれた方々に心から感謝します。ありがとうございました。

Rina Ito  
Tsubame Secondary School 2nd Grade

I stayed in Australia for 9 days and in Singapore for 2 days as a Tsubame City Goodwill Ambassador. In Sydney we stayed at a private home and took classes in English with the students at the school there.

In Sydney I enjoyed the new experience of using English at home. At first, I was afraid that I couldn't communicate in English. But I could communicate with people there using the English I have studied. The host mother was so kind and she listened to me very carefully. The meals were very different from Japanese ones. And the way of taking a shower is also very different. At first I was puzzled by it, but that was a good experience. At the weekend the host mother took me to the shopping mall. I was a little nervous at first, because the clerks spoke to me in English. Later, I could buy a lot of things using English.

At school, I talked with the students a lot. I listened to them about their hobbies, family and so on. And I talked to them about myself, Tsubame City and Japan. When I showed them some pictures of sushi, a rice field and so on, they seemed to be interested in the pictures. In the English classes, the teachers who were native speakers taught us English. Of course, the classes were in English. So I could learn the native English pronunciation that I misunderstood. And we also took various classes with the students there. At first I was puzzled by the classes, which were very different from the Japanese ones. But I got used to taking classes in English. And I could enjoy them at last. I was happy to make new friends there. They were so positive during classes that they raised their hands and actively spoke up. I was surprised at that. I thought it would be better for us Japanese students to be more positive like them.

In Singapore, we did a quiz presentation about Tsubame for the members of Niigata Kenjinkai. They really enjoyed our presentation and we enjoyed talking with them about Singapore during dinner.

This experience is a lifetime treasure for me. I want to make use of the experience. I really appreciate that I could take part in the wonderful tour. Thank you very much.



授業で発言！



シドニーオリンピック  
聖火ランナーのトーチ



お別れパーティー

## 夢のような時間

県立燕中等教育学校 2 学年 柴山 凜奈

私にとってこの 12 日間は、初めて経験することがたくさんあった時間でした。まず、飛行機に乗ること自体が初めての経験でした。離陸時には体が浮くような感覚がしたり、窓から外を眺めると、景色が雲の上だったりしたことには驚きました。

今回、12 日間という期間、自分一人が家族と離れることも、私にとっては初めてのことであったので、出かける前はとても不安な気持ちになりました。実際に海外で、自分の気持ちや言いたいことを伝えることができるのか、そもそも自分の英語が通じるのか、本当にとっても不安でした。そんな不安な気持ちをもちながら、現地の学校に到着すると、そこはあたりまえですが、英語であふれていました。現地の生徒たちが話す、たくさんの英語に触れることができました。現地の学校で、私たちの世話を担当してくれた「バディ」という役割の生徒とは特にたくさんのコミュニケーションがありました。しかし、その会話の中でも、うまく伝えることができなかったり、理解できなかったりすることがありました。そんな時、バディスチューデントはわかりやすく簡単な英語を使ってくれたり、ゆっくり話してくれたりしてくれました。そのおかげで、会話量は徐々に増えて、毎日、彼らと楽しく過ごすことができるようになりました。

また、ホストファミリーも、とても優しく接してくれました。ホームステイでの最初の夕食は、BBQ をしてくれて、大きなステーキを食べました。ホストファミリーは、学校から帰ったときや休日に、ビーチやショッピングにも連れて行ってくれました。オーストラリアのビーチはとても広大で、新潟の海では感じることはできない特別な気持ちになりました。そんなホストファミリーとも、忘れることができないたくさんの思い出ができました。

この海外派遣事業では、本当にたくさんの素晴らしい経験をすることができました。とても親切にしてくれたバディやホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、海外のことについて、もっと学び、もっとたくさんを知り、関わりをもっていきたいとおもいました。私は、今回のこの経験を決して忘れません。夢のような時間を本当にありがとうございました。

*Thank you very much.*

## A Time Like a Dream

Rinna Shibayama  
Tsubame Secondary School 2nd Grade

I had a lot of "first experiences" during the 12-days visit. I got on an airplane for the first time. When it took off, I felt that I was floating in the air. And I was very surprised to see the clouds out of the window. They were below me.

It was also the first time that I spent 12 days away from my family. So I was very nervous before leaving Japan. I was afraid that I couldn't talk about what I wanted to say or what I felt. I wondered if I could communicate with the students in Australia using English. I still felt like this when we got to the school there. Of course all of the people there spoke English. So I was in an environment which was full of English. I communicated with the students there in English. I especially communicated a lot with the "buddy student" that had the role of taking care of me. But sometimes I couldn't tell them what I wanted to say or understand them. When I was in trouble, the buddy student always helped me. She talked to me slowly in easy English. Day by day, the conversations got better and better. Thanks to her kindness, I could enjoy myself every day.

At the home where I stayed, all of the family were very kind to me. On the first day they had a barbecue in the evening for dinner. I ate a very big steak. After coming back from school, they took me out to the beach. It was very large and beautiful. The sea was different from the sea in Niigata. It was shallow for a good distance from the shore. There I felt very special. They also took me to the mall for shopping. We shared a lot of happy times. I made many good memories I will never forget with my host family.

Because of this trip, I had a lot of wonderful experiences. I really appreciate the kindness of my host family, my buddy student and the people of the "Jack and Betty Program". I want to learn and study about foreign countries much more.

Thank you very much.



お世話になった  
ホストマザーたちと



現地校生徒と



スポーツデイ、  
ボーリング場で

## 実力

県立燕中等教育学校 2 学年 丸山 綺月

今回の海外派遣事業では、シドニーに住む人やその生活習慣、文化に深く触れることができ、とても貴重な経験となりました。また、それと同時に、自身の英語に関する実力を知る機会にもなりました。

現地の学校の生徒は、授業で日本語を教わっているわけではないのに、「こんにちは。」と日本語で話しかけてくれた生徒がいて、とてもうれしくなりました。授業の雰囲気も日本の授業とは違い、とても明るい雰囲気で、新鮮なことばかりでした。特に楽しかったのは、現地の生徒と過ごすモーニングティーとランチの時間でした。一緒におやつや昼食を食べながらおしゃべりしたり、ハンドボールをしたりして過ごしたことが思い出に残っています。

ホームステイ先のホストマザーのジョーは、とても親切にしてくれました。週末には動物園やショッピングに連れて行ってくれ、金曜日の夕方に行ったビーチは、その景色の美しさに感動しました。そして、ある日の夕食には、カンガルーの肉を食べました。とても固くて食べるのがたいへんでした。また、食事の量が全体的に多くて、食べきれないことがほとんどでした。

今回の経験で強く感じたことが2つあります。1つは、「英語が書ける」だけではだめだということです。現地の人と生活するには会話が必要なことは言うまでもありません。特に困ったことは、相手が話していることを聞き取って理解することでした。速いスピードで話されたときや、分からない単語がたくさん出てきたときにはとてもたいへんでした。日本語が全くわからない人と話すことは本当に難しいことだということを実感しました。

次に、自分に実力がなかったことです。発音が悪くて話した英語が伝わらなかったり、知っている英単語が少なくて、相手が話していることを理解できなかったりして、自分にはまだまだ足りないところがたくさんあるということを知ることができました。

これからは、もっと英語力を上げるために、日々の英語の授業に真剣に取り組む、学校のテストなどではいい結果が出せるようにがんばります。そして、またオーストラリアに行きたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった燕市に感謝します。この経験で、自分の夢の実現に一步近づくことができたように思います。これからも夢の実現に向けてがんばります。本当にありがとうございました。



## My Current Capability

Kirari Maruyama  
Tsubame Secondary School 2nd Grade

Through the visit overseas, I had valuable experiences. I could get to know a lot about the people in Sydney, the way of life, culture and so on. And I could find out a lot about my current capability of English as well.

Though the students there were not taught Japanese in classes at school, some of them said, "Kon-nichiwa" to me. I was very happy to hear that. The ambience of the classes there were very different from Japanese ones. I felt refreshed because the students were so lively in the classes. I really enjoyed spending Morning Tea Time and lunch time with the students there. We talked a lot while eating snacks or lunch, and we played handball. That was an especially memorable time.

My host mother, Joe, was very kind to me. On the weekend, she took me to the zoo and mall for shopping. I was moved by the beautiful view of the beach, where we went one Friday evening. One evening, I was very surprised by the dinner. I ate the meat of a kangaroo. It was so tough for me that it was difficult to eat. During meals there was too much food for me to eat it all.

Through the experience, I learned two things. First, it is not enough to only write English. We need to speak English to live in English-speaking countries or communicate with the people there. Especially I found it hard to listen to the people there and understand them. When they spoke fast, or used words I didn't know, I couldn't understand them very well. It was very hard for me to talk with people who didn't know Japanese at all.

Second, I found that I want to get better at speaking and listening to English. They couldn't understand my English, because of my pronunciation. And I couldn't understand them, because of my poor English vocabulary. I found that I had to learn much more English.

From now on, I will make much more efforts to improve my English ability. I will take part in English classes seriously, and try to get a higher score on the exams. And I want to go to Australia again someday.

I appreciate Tsubame City very much for giving me this opportunity. This experience helped me to get one step closer to the realization of my dream. Thank you very much.



ビーチにて



授業で発言



聖火トーチ「焦げてる？」

8 月 16 日から 27 日までの 12 日間、私たち 12 人は素晴らしい経験をしてきました。燕市の海外派遣事業で親善大使として、オーストラリアとシンガポールを訪れ、その毎日が驚きの連続でした。訪問先や現地の学校で行った燕市の PR 活動や、学んできたことを報告します。

現地校 “St. Mary & St. Mina’s Coptic Orthodox College” では、朝、ホストファミリーの車で学校に登校し、午前中は、ネイティブスピーカーの先生の英語の授業を受けました。午後からはバディスチューデントと一緒に現地校の時間割に沿って、様々な教科の授業を受けました。その中で、驚いたことの 1 つに「モーニングティー」があります。昼食前の軽食の時間のことで、ホストマザーはこのために、昼食とは別にリンゴやスナックを持たせてくれました。現地校の生徒の中には、フライドポテトなどのおやつを「キャンティーン (“canteen”）」と呼ばれる学校の売店で買う生徒もいました。

宗教に関する授業があったことにも驚きました。黒い服を着た先生(神父)がお話をするという形態で、突然、生徒も先生も一斉に携帯電話を取り出し、何かを見始めました。疑問に思い、何をしているのか尋ねてみると、「聖書を読んでいるところだよ。」と教えてくれました。それで、最終的には何を言っていたのかを、だいたい理解することができました。自分の学校では見られない独特な授業だと思いました。

最終日には、現地校の生徒たちに向けて、燕市の PR 活動としてクイズを行いました。シドニーの日本人領事館で行ったときは、少し声が小さかったことが反省点でしたが、現地校の生徒たちが盛り上げてくれたので、大きな声で発表することができ、大成功でした。

この海外滞在経験でたくさんのことを学びました。1 つは、コミュニケーションについてです。出発前に立てた目標の一つに「現地の人たちと積極的に会話すること」を掲げました。最初はホームステイ先のホストファミリーやバディスチューデントたちと、少しずつ会話をしていましたが、いつの間にか積極的に交流できるようになりました。この力は今後の自分にとって必ず役に立つと確信しました。しかし、語彙や表現については、まだ力不足を痛感しました。伝えたいことをしっかりと伝えることができているか不安で、改めて英語学習の不足を実感することになりました。今回学んだことを、今後、燕市へ発信できていければいいなと思っています。

## Wonderful Experiences

Haruhi Moriyama  
Tsubame Secondary School 3rd Grade

The 12 Tsubame City Goodwill Ambassadors have had wonderful experiences during the 12 days from August 16<sup>th</sup> to August 27<sup>th</sup>. We visited Australia and Singapore, the experiences there brought us endless surprises every day. I am going to write about those days, the things I learned and what we did for the presentation activities about Tsubame City.

We went to a school called "St. Mary & St. Mina's Coptic Orthodox College", and we joined the English classes which were taught by native teachers in the morning. In the afternoon we took various classes with the students there according to the schedule. One of the students was called a "buddy student" who took care of me. I was very surprised by the Morning Tea Time. It was a time to eat snacks and drink tea or juice before lunch. I brought snacks, apples or juice which my host mother gave me before leaving home. I also brought my lunch every day. Some of the students buy snacks like French fries at the canteen in the school.

I was also surprised at the classes about religion. A teacher wearing black, called a Father, talked about religion in these classes. In the class, suddenly all of the students and teachers took their cell phones out, and looked at them. I didn't know what they were doing, so I asked the buddy student what was happening. She answered that they were reading the bible on their phones. So I could mostly understand what the teachers talked about. We have never experienced a class like this in Japan.

On the last day, we did a quiz about Tsubame City. We showed a presentation about the appeals of Tsubame City. When we did a presentation like this at the Consulate General of Japan in Sydney, our voices were not loud enough. But we did this with loud voices because the students enjoyed the quiz very much. It was a very big success.

I learned a lot through the experience. One of my objectives before leaving Japan was to communicate positively with people there. At first, my conversations with the people there, the students and the members of the family, were short. But day by day they became better and better. At last I could communicate with the people there much more positively. I am sure it will be very useful to me. But I realized I need to improve my English vocabulary and ability to use English expressions, because I was afraid that I couldn't say what I wanted to say. I hope that I can spread what I have learned there throughout Tsubame City.



英語授業での発言



現地校生徒と一緒に



ランチは外で

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	阿部 菜々里
-----	----------------	----	--------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 自分の知っている英語を使い、積極的に会話をすることです。

目標② 燕市のことをしっかりとPRすることです。  
現地と燕市と、比べてちがうところなどを  
知りたいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について バディーマイトやホストファミリーと  
たくさん会話ができました。

目標②について PRは訪問先で、しっかりとすることが  
できました。現地と燕市のちがうところも、  
知ることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーといろいろな音楽を聞いたことです。  
ホストファミリーには、日本の音楽を紹介しました。  
ホストマザーの出身国であるクロンビアの、  
歌やおどりを知ることができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

外国の人の英語を体感して、あの速い英語を  
聞き取り、もっといろいろな会話をしてみたいなあ  
と思いました。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

現地の人はとても優しいです。だから私が話す  
英語を分かろうとしてくれました。少しでも、英語の  
勉強をしておけば、大丈夫だと思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	北澤 春花
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 現地の人達とたくさんコミュニケーションをとり、自分の英語力を確かめ、さらに向上させる。

目標② 自分の英語が通じなくても焦らず、諦めずに知っている単語を並べコミュニケーションをとる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できました。バディステudentやホストファミリーとたくさん話しかけて楽しくコミュニケーションがとれました。自分の英語力を確認することができました。

目標②について 達成できました。辞書を使って、最後まで諦めずに、自分の伝えたいことを伝えられました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと過ごした週末です。土曜日は、動物園とピクニックへ連れて行ってくれました。動物園では、カンガルーにエサをあげたり、日本では見られない動物が見られました。日曜日には、電車でおヘラハウスに行き、ハーバーブリッジにのぼりました。オーストラリアの名所に連れて行ってくれて、いろいろなことを教わり、とてもよい体験ができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

もっと英語を勉強して、さらに英検や上の級に合格したいです。そして、語学だけでなく、世界のことについて学びたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

勇気を出して話しかけてみてください。きっと相手に伝わると思います。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	岡田奈柚
-----	----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市の有名な物・文化・行事などを現地の人達に分かりやすく、具体的に話し、燕市や新潟県の良い所を知ってもらおう。

目標② ホームステイをさせてもらう人とたくさん会話し、自分のコミュニケーション能力を高めると共に、ホストファミリーとの仲を深める。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できたと思います。たくさんのお場でPRをしたときに、しっかり聞いてくれたし、クイズも楽しんでもらえたからです。

目標②について 達成できました。土曜日にショッピングに行った時、ホストファミリーとたくさん会話できたし、ホストファミリーとの仲も深められたからです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

一番の思い出は、バディタイムを過ごしたことです。たくさん会話したり、授業を受けたりして、とても楽しかったです。私の不十分な英語でも、バディタイムが分かるようにしてくれたことが、とても嬉しかったです。たくさんのお出掛けだったので、良かったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これから頑張りたいことは、もっと英語力を伸ばすことです。海外派遣に行って学んだことをもとに、現地の人の発音を思い出しながら、発音の改善に努めていきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初は、たくさん知らないこともあるし、スポーツコンテストにも参加しなければならぬし、忙しくなりますが、しっかりとやればとても良い体験ができるので、頑張ってください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	小林麻美子
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 私は親善大使として燕市を海外の方々に深く知ってもらいたい。そして自分も異国の文化にあり、有意義な体験をしたい。

目標② ホストファミリーやバディとの信頼を築き学校では現地の勉強を理解したい。そして現地で英語の力を付け、日本に帰国したい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について オーストラリアでは学校・領事館でPRを行い、シンガポールでは新潟県人会でPRを行いました。なので、燕市の事を深く知ってもらえたと思います。有意義な体験が出来た。

目標②について 現地の学校では多くの友人を作る事が出来ました。ホストファミリーやバディはすぐに自分を受け入れてくれてみんなの会話を聞いて聞きたい事がありました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の学校の友人との授業や休み時間の会話とボーリングが一番思い出に残っています。休み時間では自分の家族の事を話しみんなは話したら熱心に聞いてくれました。ボーリングでは自分はあまり上手ではないけどみんな私にやさしく教えてくれました。とてもやさしい友人をたくさん作れてとてもうれしかった。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これからもっと英語を勉強して困っている外国人の手助けをしたり、ホームステイなどを多く受けたい。そして英語の力を付けたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

「やりたい」などの願望で終わらせるのではなく、実行にうつして欲しい。私は実行にうつした事で貴重な体験をすることが出来ました。ぜひ海外派遣に挑戦してみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	山田 ひなた
-----	----------------	----	--------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 自分の英語力、コミュニケーション力を向上させる。

友達をたくさんつくる。

目標② オーストラリア、シンガポールの人たちに、今よりもっと、英州市に興味をもってもらえるように積極的にPR活動をする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できたと思います。バディやファミリーに質問された時や、話しかけられた時はすぐに答えられないこととか多かったけれど、ちゃんとコミュニケーションをとれたので自信がうきました。

目標②について 達成できたと思います。休み時間とかに、バディと学校のことを話したりしました。PR活動では、原稿をスラスラ読めたのでよかったです。特に、オーストラリアの人たちにPR活動をした時は、真剣に聞いてくれたので嬉しかったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

海外の友達ができたことです。最初、言葉が通じるか心配でしたが、現地の学校の生徒は皆優しくだったので、誘ってくれるなど、うれしかったです。少し、自分の言いたいことが伝わらなかったこともあったけれど、ジェスチャーなどを使って、上手く会話することができました。フェアウェルパーティーでは、バディと会ったのが最後だと思い、すごく悲しかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回のこの12日間の海外派遣で学んだことを生かし、これまでに以上にもっと自分の英語力向上を目指して頑張りたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

何か、自分のやりたいことを見つけ、どんどんチャレンジしてください。  
努力があれば、必ず結果は返ってきます。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	近藤 佳菜
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 新参大使として、燕市の良さを素晴らしさを海外のトに伝え、ゆレ  
の人でも明る、燕市に興味を持ってもらえるようにします。

目標② 自国から積極的にコミュニケーションを取り、自国の英語カ  
を向上させます。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションやインタビューを通して燕市の良  
や素晴らしさを伝えることができた。終わった後は達成感も感  
じました。

目標②について 実際にはバイターナイトとの交流やホームステイをきっかけに  
コミュニケーションをはかることができた。英語カの上昇も上げることが  
できた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

バイターナイトとの交流が最も印象に残っています。英語がわからず苦渋した  
時もありましたが、とても楽しい時間を過ごすことができた。そして何れも  
自国から行く人質に慣れて英語上達のためと頑張ることが  
できた。初めての海外で不安と緊張があったけれど自国にとって  
いい経験をすることができてよかった。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この事業を通して燕市のことを学んだのが将来に生かしていきたいと思  
います。海外派遣に行ってみて自国の英語カが足りないと感じた  
のでこれから勉強を重ねて上達していきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

積極的に自分からという意思を持ってコミュニケーション  
をとってほしいです。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	溝口 優希
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① ホームステイを通じて外国の文化を学び、そして本場の英語を学ぶこと

目標② 常にホストファミリーや現地の友達と会話して、仲を良くすること

2 目標は達成できましたか？

目標①について オーストラリアの文化は良く分からなかったけど、シンガポールは多文化だということが分かりました。そして、オーストラリアの英語をしっかりと理解できました。

目標②について ホストファミリーや現地の友達との共通点をさがして、その見つけた共通の話をする事でさらに仲が良くなりました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーといっしょに行った動物園です。

日本では見られない動物達を見たり、ふれ合ったりできた、日本とは違いはなし飼いにしている動物が間近で見られた、というのがありますが、一番はホストファミリーと一緒に楽しめた、という理由です。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回の活動で分からない文法、単語を積極的に調べて、次に行く外国でスラスラと話したいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

外国に行ってみたい、自分の英語がどれくらいなのか確かめたい、という人にチャレンジしてもらうと良いです。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	佐藤 海帆
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市の魅力をたくさん伝えて燕市に来てみたいと思わせること。

目標② 現地で友達をたくさん作り、自分の英語力を向上させること。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 燕市に来てみたいと思わせることができたかというかは分かりませんが、燕市の魅力をたくさん伝えることはできました。

目標②について 現地の生徒はみんなフレンドリーで気軽に会話ができたのでこの目標も達成できたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

テレビや写真でしか見たことのないオーストラリアやシンガポールの有名な物を自分の目で見る事ができました。とても貴重な体験をしました。特に思い出に残っていることは、現地の学校でたくさんの友達と会話したこと。お互いの国について話していただけたことがたくさんありました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これから挑戦してみたいことは、今回の海外派遣で学んだことを活かして様々な国へ行き、自分で見聞かして文化を学ぶ、自分の英語力をより向上させることです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

海外派遣を楽しむためには活動することから一番大切だと思います。外国なので日本と違うことはたくさんあります。多少嫌だと思っても、楽しもうと努力をすればすばらしい経験の1つになると思います。なので海外派遣を楽しんでください!!

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	伊藤里菜
-----	----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

- 目標① 自分の英語力、コミュニケーション力を向上させるとともに、  
 ネイティブの発音を習得することです。  
 また、ホストファミリーの人とも仲良くなりたいです。
- 目標② 燕の良いところを発信して、少しでも燕市のことを知ってもら  
 ことです。また、オーストラリア、シンガポールの文化や歴史を知り、  
 たくさんの人に伝えたいです。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について ホームステイや現地の学校訪問などを通して、  
 英語力、コミュニケーション力の向上もできましたし、発音も派遣前より  
 改善されたと思います。ホストファミリーとも仲良くなりました。
- 目標②について グレゼンやワイズ以外にも、バディなどに写真を  
 見せながら燕市を伝えられました。また、食事や生活を通して  
 オーストラリアやシンガポールの文化、歴史を学びました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の学校訪問です。最初は英語が上手に話せなかったけれど、  
 バディが優しく、片言の英語で話しかけてくれることができました。  
 また日本と授業の受け方が違い驚きました。ラグビーの生徒たちは  
 積極的で、どんどん手を挙げていてびっくりしました。  
 この経験は、今後の生活にも活していきたいです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

上手に英語が伝わらず悔しい思いをしたので、今からもっと  
 英語の勉強をがんばりたいです。機会があればもう一度、  
 ホームステイや学校訪問をしたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

ホストファミリーやバディと会話するために、自分のことや燕市の  
 ことを英語で話せるようにしておきたいです。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	柴山 淳希
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① オーストラリアと韓国には英語をしゃべり、仲良くしたい。  
日常会話 スキルを上げ、英語力を 向上させたい。

目標② 韓国の文化を他国の文化と理解 できるように 語りをもち、  
仲良くしたい。オーストラリアの木にも 暮らしてみたい。文化の ことを  
知りたい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について オーストラリアと韓国 英語をしゃべり、仲良くしたい。  
できました。英語が しゃべれる、オーストラリアに 滞在をした。  
ことができました。

目標②について 韓国 PR の プロジェクト、7月には 海外で つかい  
てほしい。韓国に 滞在をした。オーストラリアに 7月にも  
滞在をした。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

オーストラリアの 学校に行きました。周りが 英語 ばかりの  
生活をしたのは 初めてでした。自分の 英語が 通じると  
うれしくて、もっと 会話を したくなりました。  
バグ、スティーブは すごく 優しくしてくれて うれしかったです。  
本当に 楽しかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これから、海外の 文化に 興味を持ち 関わりをもつ  
いきたい。もっと 英語を 勉強して 英語力を 上げたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

とにかく 楽しんで 木切を 思いやる。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	丸山 綺月
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 親善大使としての誇りを持ち、燕市をPRしていきます。

目標② 失敗することをおそれずに、積極的に現地の方々とコミュニケーションを取ります。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 燕市をPRするプレゼンでは、間違えてしまったこともありましたが、皆と協力して発表することが出来ました。

目標②について 目標は達成することが出来たと思います。自分の意見や考えを伝える時、自分から進んでバディーやホストファミリーに伝えることが出来ました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の学校で過ごした時間です。たくさん友達が出来て、モーニングティーやランチタイムでお互いの国や自分自身について教え合ったり、ハンドボールをして遊びました。何よりもうれしかったことは、自分の話す英語が相手に伝わり会話が弾んだことです。また、現地の動物園に行き、オーストラリアで見ることのできない動物に会うことが出来ました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この海外派遣で培った経験を生かし、学校の授業に積極的に取り組む英語が苦手だけでなく「得意」と言えるくらい勉強に励んでいきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

英語を伝えることはとても難しいですが、自分の話していることが相手に伝わって会話が弾んできたときは、今まで感じていたことのないうれしい気持ちでいっぱいになります。なので、相手に何かを伝えるときにはあらかじめ最後まで読んでみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	森山 晴日
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市の魅力を現地の市民に分かりやすく伝えることをします。

目標② オーストラリアの文化を十分に体験して、ホームステイ先の市民や、バディ・メイトとコミュニケーションを取ることをします。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションや燕市に関するクイズなどを通して、燕市の魅力を伝えられたと思います。また、燕市を訪れたことも盛り上げられました。

目標②について ホストファミリーと一緒に生活したり、現地の学校やバディ・メイトと週ごとに会ったりなど、とても勉強になりました。コミュニケーションも向上したと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

オーストラリアのCityに出かけたことです。ホストマザーの妹さんが電車で来てくれていてくださいました。見るもの全てが新鮮でとても良い思い出になりました。オペラハウスやハーバードリッジなどの有名なものや、湖などの自然のものまで、とてもきれいでした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回の海外派遣を通して、自分の語学力の無さを改めて実感しました。なので、もっと英語を勉強して、いつか「自分一人で海外に行けるようになることができました。」と言えるようになりたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

事前によく使う日常会話などを練習するといいいと思います。ホストファミリーやバディ・メイトたちと会話をするときに、英語がうまく伝わらないことがあったので、簡単な会話を身につけておくといいと思います。



## 親善大使アンケート

派遣先	学年	性別
オーストラリア シドニー シンガポール	小学6年生2人 中学1年生1人 中学2年生5人 中学3年生4人	男 1人 女 11人

### Q1 海外派遣はどうでしたか？

①良かった 11人 ②まあまあ良かった 1人 ③あまり良くなかった 0人 ④悪かった 0人

#### ●その理由は？（具体的に）

- ・ 毎日、英語だらけでしたが、日本と違う感覚を味わうことができました。（人）
- ・ 食事が合いませんでした。
- ・ 周りがすべて英語だったため、英語に慣れ、言いたいことを伝えられるようになり、友人ができました。
- ・ バディスチューデントと親しくなり、英語について多く学べ、学力向上のきっかけになりました。（2人）
- ・ 学校の休み時間、現地校生徒と一緒に楽しく話したり、食べたりして楽しく過ごすことができました。
- ・ 初めての国でのホームステイをするのはとても楽しい経験でした。
- ・ たくさんの人と英語で会話し、海外にたくさんの友人ができました。
- ・ 自分の英語力を確かめ、向上させることができました。
- ・ 現地の友人ができ、燕市をたくさんPRすることができました。
- ・ 自分自身の英語力を発揮することができ、積極的に異文化触れ、とても良い機会になりました。
- ・ ホストファミリーやバディスチューデントと親しくなるなど、貴重な経験ができました。
- ・ 海外の友人ができました。

### Q2 日程はどうでしたか？

①きつかった 0人 ②ややきつかった 2人 ③やや楽だった 7人 ④楽だった 3人

#### ●体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。（飛行機、英語、食事、日程など）

- ・ 食事が合いませんでした。（4人）
- ・ ホームステイ先の家庭のルールに慣れることがたいへんでした。
- ・ 健康でした。（2人）
- ・ 食事の量が多くて大変でした。（2人）
- ・ ホームシックになりました。
- ・ 飛行機のフライト時間がとても長く、辛く思いました。
- ・ 機内食が口に合いませんでした。



バディスチューデントとの対面

### Q3 期間はどうでしたか？

①長かった 0人 ②やや長かった 3人 ③ちょうどいい 6人 ④やや短かった 2人  
⑤短かった 1人

### Q4 海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？ 「特に良かった」ことを◎に1つ、「良かった」ことを○に4つ以内で記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、△に3つ以内で記入してください。

◎「特に良かったこと」

- ・ ホームステイ（３人） ・ 観光（２人） ・ 学校（４人） ・ オペラハウス（２人） ・ シンガポール
- ・ 現地校の生徒（２人）
- ・ 現地の学校のお別れ会（１人）
- ・ スポーツデイ
- ・ モーニングティー
- ・ ホストファミリーと過ごした放課後と休日
- ・ 燕市のPR クイズ
- ・ ゲスト（オリンピック）の講演（１人）
- ・ シドニー日本人領事館でのプレゼンテーション
- ・ マーライオン
- ・ 燕市のPR活動（プレゼンテーション）



ハーバーブリッジから見るオペラハウス

○「良かったこと」

- ・ 現地の学校の授業（５人）
- ・ ゲスト（オリンピック）の講演（１人） ・ 現地校（２人） ・ 観光（３人）
- ・ バディスチューデント ・ 動物園（２人） ・ ショッピング（４人） ・ ベジマイト
- ・ ビーチ ・ マーライオン公園見学（３人） ・ ビーチ ・ ステーキ ・ BBQ
- ・ スポーツデイ ・ モーニングティー ・ ランチ ・ 英語を聞きまくったこと
- ・ ミートパイがおいしかったこと
- ・ 現地の生徒たちとの「つばめっ子カルタ（英語版）」
- ・ 現地の人たち（親切さ） ・ 街並み
- ・ ホテル（２人） ・ オペラハウス
- ・ 天体観測



夜はまた違う姿のオペラハウス

△「良くなかったこと」

- ・ シャワー（２人） ・ 水圧 ・ 食事
- ・ 家 ・ セロリが口に合わなかった。

**Q5 ホームステイの期間はどうか？**

①やや長かった ２人 ②ちょうどいい ５人 ③やや短かった １人 ④短かった ４人

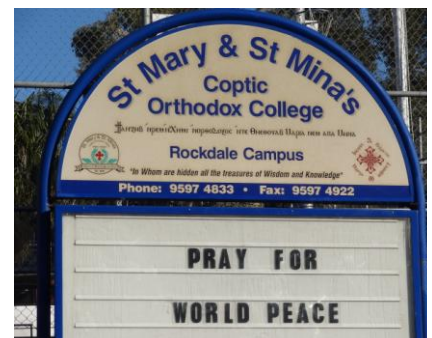
**Q6 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。**

①良かったことは？

- ・ 家族が優しくった。（１人） ・ 風呂の時間を気にせず入ることができた。
- ・ ケーキがおいしかった。 ・ 一人だけのホームステイではなかった。
- ・ 日本からのお土産を喜んでくれた（１人） ・ 自分の英語で通じた。
- ・ ホストファミリーが自分たちのことを考えてくれたことをうれしく思いました。
- ・ オーストラリアの発音を知っていて、意識して聞くことができました。
- ・ 放課後や休日、ホストファミリーといろいろなところに出かけた
- ・ たくさんの場所に連れて行っていただき、いい経験ができた。
- ・ 自分の家族の写真を持って行き、紹介できた。
- ・ 海外で友人ができた。

②困ったことは？

- ・ 言いたいことが言えなかったことがあった。（１人）
- ・ シャワー（１人） ・ 洗濯機がなかった（１人）
- ・ 食事が口に合わなかった ・ 文化の違い
- ・ 食事の後、会話がなかったことがあり、暇なときがありました。



現地校の表示

- ・ 暖房がなく、寒かった。
- ・ ホストファミリーとあまり会話できなかった。

③自分のしたことや事前の準備は？

- ・ 日常会話を調べて、ノートに書いて準備した。
- ・ 手伝いができた。・ お土産を袋に入れて準備した。
- ・ オーストラリアの発音や文化について調べるなど準備した。
- ・ よく使いそうな会話表現などを調べて練習した。(2人)
- ・ もう少し会話表現を確認するなど、事前の学習をしておけばよかった。
- ・ スーツケースに物を詰めすぎた。



校長先生からの修了証

**Q7 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。**

- ・ ホームステイ先の情報と違う人数で、お土産が足りなくなった。
- ・ 海外では高校生がたばこを吸っていいのかと思った。
- ・ 食事やシャワーなど現地の人との感覚の違いに戸惑った。

**Q8 海外派遣について意見や感想、要望などがあれば自由に書いてください。**

- ・ ホストファミリーに子どもがいればなお良かった(3人)
- ・ シドニーの観光をもっとしたかった。
- ・ 滞在中の活動をDVDなどにまとめてほしい。
- ・ 文化や言語の異なる国での経験をとおして、たくさんのことを学び、とてもいい思い出ができた。
- ・ シンガポールにもっと長く居たいと思った。

**Q9 ホストファミリーのお土産として、何を持っていきましたか。具体的に書いてください。**

- ・ パック・スシのキーホルダー
- ・ タオル
- ・ すもうのバッグ
- ・ 浴衣(2人)
- ・ 風船
- ・ シャボン玉
- ・ 風呂敷
- ・ 扇子(4人)
- ・ ティッシュ
- ・ 万華鏡
- ・ 折り紙(3人)
- ・ 洗濯ネット
- ・ ラップ
- ・ ラップ
- ・ 手ぬぐい
- ・ 日本地図
- ・ ひらがな表
- ・ ひらがなドリル
- ・ コマ
- ・ 紙風船
- ・ 箸(2人)
- ・ 日本の風景のジグソーパズル
- ・ 奈良県の友禅染
- ・ メモ帳
- ・ マスキングテープ
- ・ 東京オリンピック
- ・ パラリンピック2020のタオル
- ・ うちわ(2人)
- ・ ペン
- ・ 折り紙の本
- ・ 風呂敷で作ったカバン
- ・ キーホルダー
- ・ 一人に一つ、渡すことができた。



ヘイズにより曇った高層ビル群

**Q10 文化紹介や燕市のPR活動のために、事前に準備しておいた方がよいことを具体的に書いてください。**

- ・ プレゼンの確認をしっかりとる。(2人)・ひたすら「読む」練習をする。
- ・ 英語のプレゼンなど、自分の担当をしっかりと練習しておく。
- ・ 燕市について、PR活動原稿以外にも、たくさん知っておくこと
- ・ 金属器や洋食器を持っていけば、さらにPRとして伝わりやすいのではと思った。
- ・ 練習の時、わからない単語にはふりがなをふり、何回も口に出して読む練習をし、長い文の区切りを見つける。
- ・ 燕市や日本の写真

**Q11 現地での英語のレッスンのために、事前に準備しておいた方がよいことを具体的に書いてください。**

- ・ 英語学習
- ・ 電子辞書(4人)
- ・ 辞書(2人)
- ・ ノート
- ・ もっと基本的な英語を学んでおく良かった。
- ・ 常に電子辞書などを持ち歩き、単語などを調べるようにした方がいいと思いました。



シンガポールでは、新編  
見人会の方々と交流しま  
した。皆さんが、新編に  
関する仕事をされていた  
り、新編とシンガポールの  
絆を深めようとしていた  
りしている様子が良く分か  
りました。共に新編泉の出  
身ですが、お互いの故郷の  
ことを話し合ったり、熱市  
のことを色々とお聞きし  
てくださったりしました。



新中等教育学校2年 高田知奈

ホスト・ファミリーの  
皆さんはとても親切  
で、私たちが英語でう  
まく言えないことがあ  
っても、理解しようと  
してくれました。週末  
には一緒に外出して、仲  
良くなることができました。  
バディ・ステューデント  
の家族でもあったので  
、学校でも家庭でもと  
ても心強かったです。



新中等教育学校3年 小林陽太

8月18日頃にパース市  
を視察しました。市内中  
心部の歴史的建造物と近  
代的なビルが調和してい  
る中心街を散策したり、  
郊外のフリーマントル地  
区で世界遺産の旧フリー  
マントル刑務所を見学し  
たりしました。パース市  
の歴史や文化をたくさん  
学ぶことができました。



富田中学校3年 藤澤明希



パースの子どもたちとの異文化交流

## シンガポール市内視察



私たちが滞在した Aubin  
Grove 地区は、パース  
市の南にある自然が豊か  
な新興住宅地です。新し  
い家がたくさんあり、そ  
のほとんどが平屋建てで  
した。小学校も平屋建て  
で、教室棟が広い敷地内  
に点在しています。気候  
が温暖で安全な所なの  
で、散歩をするなどして  
景色の美しさを楽しみま  
した。



新中等教育学校3年 長崎川田

8月21日曜日の校外学  
習では、オーストラリア  
の先住民のアボリジニ  
の伝統的な絵画や楽器  
について学習しました。  
ブーメランの絵を描く  
ときには、筆の代わりに  
棒を使いましたが、楽し  
かったです。楽器の演奏  
体験もできて、よい思い出  
になりました。



富田中学校3年 三好優哉

8月19日曜日から1週  
間、Aubin Grove Primary  
School で勉強しました。  
児童の皆さんは、授業  
態度がとても良く、私  
たちの話を一生懸命聞  
いてくれました。とても  
明るくて積極的で、毎  
日のように休み時間に  
遊びに誘ってくれました。  
先生方もとても優しく  
、突然授業に参加して  
も、丁寧に教えてくださ  
いました。



新中等教育学校1年 阿部詩央

シンガポール市内では、  
英語に加えて中国語や  
マレー語など、さまざ  
まな言葉を耳にしまし  
た。日本ではなかなか  
できない体験だと思い  
ました。アラブ人街、  
インド人街、中国人街  
などを見学して、独特  
の街並みを見学すること  
もできて、民族と文化  
の多様性を実感しまし  
た。



新中等教育学校3年 松田万寿

**シンガポール**  
都市の約6分の1の面積に55  
0万人ほどの人が住む都市  
国家。交通や娯楽などあらゆる  
分野のハブ(中心)を担  
うこの都市は、アジアの主要  
拠点とも呼ばれる。最新モ  
スーン技術に駆使し、赤い  
ため、1年を通じて通年  
三三三の数字を掲げるセン  
タリー・ビル(旧国庫)が  
高アジアカの繁華や地産  
品を売り込むことを目的に  
立った商業の集積地がある。



ジャック アンド ベティ

# Jack & Bettyプロジェクト海外派遣事業 3年目の舞台は「オーストラリア(パース)」 と「シンガポール」の2カ国！

私たちは、オーストラリアの Aubin Grove Primary School で熱市 P R 活動を2回行いました。1回目(8月19日)は、3～6年生約120人に発表しました。2回目(8月24日)は、6年生25人にクイズ形式で発表しました。緊張しましたが、皆さんが一生懸命に聞いてくれました。



分水小学校6年 西郷土和花

今年で3年目となるJack & Bettyプロジェクト。そのファイナルステージである英米リーナコンテストが6月20日に開催され、成績優秀者に選ばれた小・中学生12人が、親善大使としてオーストラリアのパースおよびシンガポールに派遣されました。報告書は、8月17日～28日までの12日間、ホームステイをしながら異文化理解を進めるとともに、両国の特色について現地でもPRしてきました。

8月18日(土)にパース市庁舎を訪れました。スカフィディ市長にはお目にかかれませんでした。が、国際交流事業担当の方に熱市からの親書と記念品をお渡しして、パース市についての説明を聞きました。熱市に関する質問を受けましたが、英語で答えることができて良かったです。



南中学校1年 高橋真

8月26日(木)、冬のオーストラリアから常夏のシンガポールに移動して、地球の大きさや気候、文化などの多様性を実感しました。8月27日(金)に、新編親人会の皆様にも3回日のPR活動を行いました。たくさんの方が、熱市に関心をもって聞いてくださいました。



南北中学校3年 外山よつ葉

8月27日(金)、日本自治体等連合シンガポール事務所を訪ねて、アジア諸国と熱市の産業や日本のつながりを学ぶことができました。事務所の働きかけにより、外資の企業が熱市に視察に来たり、シンガポールで展示会などを通して熱市の製品をPRしたりしていることが分かり、とても良かったです。



富田中学校2年 田中遼歩

## パース

オーストラリアの西岸、西オーストラリア州の州都。地中産性資源のこの街は、1年を通して温暖な気候、近代的なビルが立ち並ぶそばには、豊かにスワシ川が流れ、自然と調和したその景色は「世界で一番美しい」といわれることも、海外には古い歴史を持つ街があり、インド洋に面した約20キロにわたる白い砂のビーチも美しい。

8月21日(土)のオーストラリアでの校外学習では、カパシャム・ワイルドライフ・パークに行き、オーストラリアの固有種の動植物をたくさん見ることができました。日本の動物園と違い、直接触れたり近付いたりすることができたので、不思議な生態や独特の模様、色などをじっくり観察しました。



富田中学校3年 栗玉大河





## 海外派遣事業研修参加者

燕市立分水中学校 教諭 田中美樹

この度、燕市海外研修（海外派遣事業）に参加させていただき、親善大使の皆さんと共に数々の貴重な経験をさせていただきました。私自身も中学生の頃に燕市親善使節団の一員としてアメリカのシェボイガン市でホームステイをした経験が、英語教師を目指すきっかけとなりました。今回は燕市の教員という立場で研修の場を与えていただき、たいへん嬉しく思いました。

海外で過ごす 12 日間、そして事前・事後研修をとおして、多くのことを学ぶことができました。シドニーでは現地の学校の授業参観や教員との意見交換から、インタラクティブな授業形態や生徒一人一人の個性や特性が尊重される教育の在り方について示唆を得ました。また、滞在中はアボリジニーの文化を学ぶため、ウルル・カタジュタ国立公園を訪問しました。自然の偉大さと、周りに存在する全てのものに感謝し、共に在ろうとするアボリジニーの生き方を目の当たりにしました。

シンガポールでは、めまぐるしく変化し続けるアジアマーケットの現状を知りました。また、燕市で生まれ育った一市民として、燕市の製品や魅力を海外マーケットに発信するために尽力されている方の存在や、海外でもその様々な製品の魅力が認められていることに感銘を受けました。

どちらの国でも、多文化共生社会という現実を肌で感じました。異なるものを受容し、理解し、尊重し合って生きることが当たり前だということ。この感覚こそが国際社会を生きていく中で大切なことであると改めて感じました。

今回の研修では、私自身も確かな語学力と国際感覚を高めていく必要性を実感しました。今後も研修を重ね、学んだことを教育現場で子どもたちへと還元し、ふるさと燕市の教育に少しでも貢献できるよう努力して参ります。

燕市海外派遣事業を支えてくださっている全ての皆様、そしてこの研修を通して出会った全ての皆様に心から感謝申し上げます。このような貴重な経験の場を与えてくださり、本当にありがとうございました。



## 引率者報告

### 燕市教育委員会学校教育課 指導主事 杵淵 貢

今年度の海外派遣事業の訪問先は、オーストラリアのシドニー市とシンガポール共和国のシンガポール市でした。親善大使のほとんどにとって、今回が初めての海外旅行でした。パスポートや、空港での出国手続き、機内での体験、入国審査、身の回りの外国人など、すべてが新鮮で、期待と不安の入り交じった体験だったことと思います。メンバーは小学生から中学3年生までと、一般的には、その英語力の差が大きいと思われることでしょう。文法的な知識や、英語表現の幅については、中学3年生が勝る面があります。しかし、コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度においては、小学生も中学生も、差がないように感じました。初めて出会う人に対して、どのような接し方をしようとするのかは、学校における、外国語活動の授業や、英語の授業の他にも、大きく影響するものがあるのだろーうと思いました。しかも、自分の国とは異なる文化をもち、異なる言語を話す、見た目にも自国の人と異なる風貌の人と初めて接することとなると、その差はほとんど感じられませんでした。もちろん、現地校での英語の授業で演習を行うときには、その差が現れる場面が多々ありました。同じ中学生において学年差さえも見られました。

海外派遣事業は、親善大使にとって、とても大きく感動的な経験となりました。しかし、出かける前には、説明会や英語の発表と伴う出発式を含めると、1日2時間、11日間の研修会があります。宿題も課せられ、平日、部活動を終えた中学生や、習い事から直接市役所に来る小学生にとっては、決して楽な研修会ではなかったはずです。また、滞在中はプレゼンテーション活動として、4～5回、緊張感のある英語発表の場面、そして帰国後は、帰国報告会での英語発表に備えて、1日2時間の準備会が4日間ありました。このような準備やまとめ活動があることは、親善大使にとって、たいへんなことだったと思います。そのような、研修を経て、英語と向き合いながら身に付けた力を、今回は見事に発揮できたと考えております。

この海外派遣では、初めて親元を離れて見知らぬ家庭で生活する子どもたちがほとんどです。滞在中は楽しみだけではなかったはずです。しかし、そういった様々な経験が、必ず将来につながることを確信できる海外派遣だったと思います。12名の親善大使からは、たくさんの宝物をいただきました。本当にすばらしい子どもたちでした。ありがとうございました。今回の経験は、自身にとって大切な宝物の一つになったことは間違いありません。

現地でのご関係の皆様を含め、今回の貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様方には、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

